

## 2017（平成29）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

一 困難解決のための科学技術が自ら問題を生じ、その解決に新技術の開発を際限なく人間に強いるのは、奇怪であるということ。

\* 「展開」の内容説明を本文に即して行うのは言うまでもないが、「有無をいわず人間をどこまでも牽引していく」「不気味なところがある」など、傍線部の表現ニュアンスの細かいところまで、極力正確を旨とした解答表現を心掛けること。

二 テクノロジーは、実行可能性を示す知識であり、是非の判断とは次元が異なるので、人間に実行の是非の決断を迫るということ。

\* 主題「それ」＝テクノロジー（科学技術）について、「～しえない理由」を適切な構文「それは、Aのゆえに、Bしえないということ。」へと置換してから、A・Bの内容を本文に即してまとめる。 1点

\* 「ニュートラルなものに留まりえない」の単なる語義的置換（中立ではいられない等）では、加点されないであろう。さらに「実行の是非の判断と無縁ではいられない」などであれば、加点はされても、解答として不完全である。「Xに留まりえない」説明として、「Yにまで及ぶ」ことを述べる必要がある。

三 いかなる論理であれ基礎づけを欠くという意味で、実践的判断は、その倫理的判断基準を支える概念自体が虚構性をもつから。

\* 主題＝実践的判断について、限定条件＝いかなる論理もそれを基礎づけるものが欠けている・という意味で、の二点は、解答要素として必須である。

四 テクノロジーは、困難を解決しつつ新たな問題を作り出す自己展開を本質とし、是非の判断は示さない。したがって、不可能であるがゆえに判断の必要がなかった行為を導く倫理的基準として、人間の生全体に不可避的に関わる新たな虚構の産出を強いるということ。（一二〇字）

五 a 耐性    b 救済    c 余儀